

PRIORITY RULE

選手にとって必ず覚えておかなければならない重要なルール。
「優先権」プライオリティルールについて再度、確認しておこう。
しっかり覚えていれば、戦略的な試合運びに役立つはず

■ PRIORITY RULE プライオリティルール

通常のサーフィンの試合では波の奥側を確保した選手にその波に乗る権利が与えられていますが、これに対して選手のポジションに関係なく順番に波に乗る優先権を与えようというのがこのプライオリティルールです。このルールが適応されることで、選手同士の波の取り合いがなくなり、優先権を手に入れた選手は、自分の好きな波を、好きな場所からテイクオフできることとなります。

1	ヒート開始後、プライマリーテイクオフゾーン(PTZ)に到着した時点では、プライオリティは発生しない。
2	PTZとは、波がブレイクするテイクオフゾーンであり、プライオリティジャッジが目視で確認し、設定される。一日を通して、潮の干満などにより、波がブレイクする場所が変化する場合は、状況に合わせて、プライオリティジャッジにより、PTZが移動される。
3	プライオリティジャッジは プライオリティが施行されている間に、選手が着用しているゼッケンカラーに対応した、カラー表示システムを使って、海の中に居る選手に優先順位を示すよう、判定を行う。
4	ヒート開始後、誰もライディングを行っていない、プライオリティが発生していない状態(ノンプライオリティシチュエーション)の場合、従来のインターフェアレンスルールが適応される。
5	プライオリティルールが施行されている状況下では、選手自身が責任を持って、システムの表示、及び状況を確認する義務がある。
6	選手がライディング終了後、PTZに戻った順番で高い優先権が得られる。
7	プライオリティジャッジは、どの選手が先にPTZに戻ったのかを判断する。
8	二人の選手が同時にPTZに戻った場合、先にプライオリティを失った選手に上のプライオリティが与えられる。(先にテイクオフ又はライディングした場合)

【4or3 メンプライオリティ妨害】

- 高い優先順位を持っている選手に対して妨害した場合、ベスト2ウェイブの2nd ベストウェイブを全てカットされ、ベスト1ウェイブのみのカウントとなる(プライオリティインターフェアレンス)
- プライオリティを持たない選手同士および同等のプライオリティを持った選手同士で妨害が発生した場合、従来通りベスト2ウェイブの2nd ベストウェイブが1/2となりカウントされる。(ノンプライオリティインターフェアレンス)
- 妨害されて選手はヒート時間内にエクストラウェイブが与えられる。(マキシマムウェイブの設定があるときに限る)
- ダブルインターフェアレンスの場合、エクストラウェイブは与えられない

※この4or3メンプライオリティは、2018 ISA RULE BOOKを抜粋して訳したものです。

NSAの試合運営上で不足している部分があった場合、オリジナルのISA RULE BOOKを参照し、NSAルールに則りプライオリティジャッジの見解によって判断されます。

どのような状況においても、もしプライオリティシステムが機能していない事により、議論が起きた場合は、NSAルールに則り、ヘッドジャッジ、コンテストディレクターにより仲裁されます。



試合会場のプライオリティシステムパネル

■ 4メンプライオリティシステム

1. ヒートスタート時

×	×	×	×
1	2	3	4

まだ誰もプライオリティを持ってないので、通常の4マンヒートと同じように選手は自由にパドルすることができます。
この時点でプライオリティパネルは左記のようになっています。

2. 最初にレッドの選手が波をつかまえ、ライディングをしたとします。

×	×	×	■
1	2	3	4

レッドに4th プライオリティが与えられ、パネルはこのように変わります。(実際にはレッドがライディング後、沖のPTZへ戻った段階でプライオリティが与えられます)
ホワイト、イエロー、ブルーの各選手は互いに優先権はありませんが、この3選手はレッドに対してだけ優先権を持っていて、この段階ではその優先権を失うことなく自由にパドルすることができます。

3. 次にホワイトの選手がテイクオフしたとします。

×	×	■	□
1	2	3	4

ホワイトがライディングしたので、ホワイトの選手に4番目の優先権が与えられ、そしてレッドの優先権は一つ上がり、3rd プライオリティに変わります。
レッドはホワイトに対してだけ優先権を持っていますが、もしレッドがパドルして波に乗り損なうとホワイトと優先権が入れ替わり、4番目に落ちてしまうことになります。この段階でもイエロー、ブルーの2選手は波をつかまえるため自由にパドルすることができます。そして2選手間では優先関係はありませんが、レッドとホワイトに対しては優先権を持っています。

4. 3番目にイエローの選手がテイクオフしたとします。

■	■	□	■
1	2	3	4

3番目の選手が波に乗った時点で、最後まで沖に残ったブルーの選手が自動的に1st プライオリティを得ることになります。
パネルが左記のように変わり、ここから正式な4メンプライオリティがスタートします。

【4メンプライオリティ基本ルール】

- 1st プライオリティを持った選手は他のすべての選手に対して優先権を持ちます。
- 2nd プライオリティを持った選手は3rd、4th プライオリティの選手に対して優先権を持ちます。
- 3rd プライオリティを持った選手は4th プライオリティの選手にだけ優先権を持ちます。
- すべての選手は波に乗るためにパドルをしたり、テイクオフした時点で優先権が無くなります。
- プライオリティを無くした選手は、沖のPTZに戻った時点で4th プライオリティを手に入れることができます。
- ヒート開始前にテイクオフした選手は4th プライオリティが与えられます。
- ヒート終了と同時にすべての選手は優先権を失います。

ヒート開始後、ノンプライオリティシチュエーション時には従来通り波の進行方向に対してインサイドポジション(ピーク寄り)の選手に優先権が与えられる。その優先権を持つ選手がショルダー側にいる選手に対して故意に波に乗せないようにするためにパドルングをし、波に乗せなかった場合「ブロッキング」とみなされ4th プライオリティとなる。